【会議録】

事業名	令和８年度　第２回市川市文化芸術事業検討懇話会		
日　時	令和8年10月13日(火)15時30分～17時	出席者	【委 員】小笠原委員、朽木委員、小坂委員 能村委員、鈴木委員 【事務局】文化国際部 文化芸術課
場　所	市川市役所第1庁舎 ５階　第３委員会室		
種　別	□交渉　□連絡　□提案　☑その他		

【 内　容 】

1.第２次市川市文化振興ビジョン　第１次実施計画について

【 議　事 】

（１）第２次市川市文化振興ビジョン　第１次実施計画について

（事務局から説明）

・第1回懇話会でのご意見を踏まえ修正した箇所について　【資料1,3】
・リーディングプログラムの展開について　【資料 3】4-5 頁
・推進体制について　【資料 3】60 頁

（資料 2,3　リーディングプログラムの考え方　意見交換）

〇鈴木委員

リーディングプログラムの「市川駅前ミュージアム事業」「市川の文化人展等の開催」だけでは「市川市文化振興ビジョン」（以下、第 1 次ビジョン、第 2 次ビジョン）の改定に伴う象徴的な事業として十分ではないように感じる。（令和 7 年度に実施した）「市の文化芸術についてのアンケート」では、市の文化芸術に関して広報不足だと感じるという回答が多かったが、広報に対する取り組みもリーディングプログラムの中で考えているか。

〇事務局

前回の懇話会では、広報を担う「文化芸術プラットフォームシステムの構築」をリーディングプログラムとして挙げていたが、まだ事業化されていない。今回の「第 1 次実施計画」（以下、実施計画）ではより実践的な事業にフォーカスしているため、すでに事業化されており、即実践できる 2 事業をリーディングプログラムとして挙げた。ただ、本実施計画は 5 年間固定のものではないため、「文化芸術プラットフォームシステムの構築」が事業化された際にはリーディングプログラムとして盛り込みたい。

〇鈴木委員

予算化されていないもので 3 つ●がついているものは、来年度以降実施に移していける可能性があると考えてよろしいか。

【会議録】

〇事務局
事務局としては、予算化されていないもので 3 つ●がついているものを重点的に進めていきたいと考えている。

〇小坂委員
リーディングプログラム選定事業「市川の文化人展等の開催」「市川駅前ミュージアム事業」と実施計画 4 頁のリーディングプログラム再定義は関係しているか。

〇事務局
リーディングプログラムの再定義と明確化について 4 頁に記載されている。実施計画の策定にあたり、第 1 次ビジョンの評価を踏まえ、実践していたことを見えやすくするために、リーディングプログラムを 43 事業に紐づけ「実践的に」行っていくものと位置づけた。実施計画に紐づけるにあたり 3 つの基準を設け、全てを満たした「市川の文化人展等の開催」「市川駅前ミュージアム事業」をリーディングプログラムとした。

〇能村委員
「市川の文化人展等の開催」に力を入れるのは良いことだが、収蔵美術作品の活用が中心となるか。

〇事務局
「市川の文化人展等の開催」は、「市川市収蔵作品展」や市川駅前ミュージアムでの展示も紐づいている事業である。その中で収蔵作品も活用しながら、本市ゆかりの文化人も紹介していく。「市川の文化人展」も 20 回以上開催している伝統と歴史ある展示の為、これを活用しながら更にステップアップしていくものとして、「市川の文化人展等の開催」の枠組みに入っている。

〇能村委員
行政が実施するのは良いが、もっと市民参加の仕組みづくりをした方が良い。市川駅前ミュージアムもあまり知られておらず、市川市芸術文化団体協議会の団体もあまり利用していない。もう少し多くの市民が参加できるとよい。
芸術祭・文化祭についても、数十年前から同じ団体ばかりが対象となっているため活性化しない。より流動的に多くの団体が参加できるように、新しい団体や市民をどう巻き込むかを考えなくてはいけない。

〇事務局
芸術祭・文化祭については、「中核となる文化芸術イベントの開催」として会期の集約や新たな団体の参入など改革に向けて取り組むため、引き続き、ご協力・ご提言いただきたい。

【会議録】

〇小笠原委員
第 2 次ビジョン「リーディングプログラム方針」に共創型ミュージアムを掲げているので、リーディングプログラムに掲げている 2 事業も、「共創型」を市民にアピールできる形で実施していただきたい。
特に市川駅前ミュージアムなど、地道な取り組みを続けていくことで、文化芸術に関心のない方への注意喚起にもつながると思う。市民の力を借りて広がっていくと良いと思う。

〇朽木委員
リーディングプログラムが、全体をリードする事業ではなく、「先行して着手する事業」という意味での「リーディング」であることを明記した方が良い。
「市川駅前ミュージアム事業」については、若手の活動支援が大事。参考事例として、市川駅前でストリートミュージシャンが毎週金曜日に公募制でライブを行う事業がある。
これと同じように、誰でも応募したら展示できる機会などができれば、若手芸術家や芸術家の卵を応援していくことにつながると感じる。

（資料 2　☆印の今後事業化したいもの　意見交換）
〇小坂委員
14 頁「文化芸術授業の体験学習」の対象者は。

〇事務局
教育委員会と調整中。学習指導要領に基づき試行的にモデル校を定めて、音楽・図工美術・伝統芸能などを実施してみた後、学校の要望やニーズを見ながら段階的に広げていきたい。まずは小中学校を対象にしたい。

〇小坂委員
市川市文化振興財団においてもアウトリーチや出前授業等を行っているが、学校に広く募集をかけても年度計画等があるため採用されづらいという経験がある。市川市が出前授業に力を入れていることは市民にアピールできる。若い方をターゲットにする場合は、こちらから与えられるものは豊かに、早く、が良いと思う。

〇事務局
教育委員会との調整の中で学校側からは、特別授業ではなく学習指導要領に基づく授業に出前授業を入れる形であれば助かると言われている。
「文化芸術授業の体験学習」は、手を挙げていただいたモデル校にお邪魔して講義するということを考えている。

〇鈴木委員
「文化芸術プラットフォームシステムの構築」「中核となる文化芸術イベントの開催」は、実施計画 12～14 頁の複数の方策にまたがっている。これは（それぞれの方策を実現していくための）事業の一つとして、いろいろな方法で行っていくということでよろしいか。

【会議録】

〇事務局
おっしゃるとおり、いろいろな方策にまたがって、プラットフォームシステムを構築し、コンテンツもたくさんある中でそれを繋いでいくことを考えている。

〇鈴木委員
「文化芸術プラットフォームシステムの構築」については広報につながることが多くなると思うが、現時点で「文化芸術プラットフォームシステムの構築」が事業として入っていない方策にも、今後（「文化芸術プラットフォームシステムの構築」が）広がっていく可能性があるという認識でよろしいか。
また、プラットフォームシステムは広報のツールとして考えるなら、事業名というよりは複数の方策にまたがるものという印象があるが、それも検討したうえで事業として作ったものなのか。

〇事務局
おっしゃるとおり。プラットフォームシステムについては資料検索、デジタルミュージアム、回遊マップのデジタル化、行政と市民が双方向に対話・交流できる場となるようなコンテンツも考えている。また複数の方策にまたがるものだと考えている。

〇能村委員
施策 3-方策 4「文化人の顕彰」について、東山魁夷記念館の著作権関係は解決したか。
また、水木洋子邸について、かつては市民サポーターが支えていたが最近は活気がない。
文化人の顕彰として両名が挙がっているが、盛り上がりに欠けると思う。

〇事務局
東山魁夷、水木洋子は市川の文化人として外せない。東山魁夷記念館や文学課とも連携しながらできる範囲で顕彰事業を行っていきたい。

〇鈴木委員
「文化芸術プラットフォームシステムの構築」「中核となる文化芸術イベントの開催」を組み合わせてアピールしていくということで、この 2 つに☆がついたのは良いことだと思う。

〇小笠原委員
文化芸術プラットフォームシステムを早く構築し広げていくことで、多彩な分野を取り込み、市民活動を大きく包含するような双方向型のコンテンツなど、共創型ミュージアムにつながっていくきっかけになると思う。
学校連携については難しい場面もあるが、職人による伝統工芸に関する講座もあってもよいと思う。
市内の文化施設や文化人顕彰について、一時期の盛り上がりはなくなってきているが、根強いファンもいるため、市川駅前ミュージアムでそうした方と協力してミニ展を開催するなどできてもよいと思う。

〇朽木委員
文化芸術プラットフォームシステムはできたらよいと思うが、ポータルサイトを作るだけで終わらないように気を付けてほしい。
情報へ至る経路は、ツリー型(情報への経路が一方通行)ではなく、セミラティス型(複数の経路でたどり

着く)の構造にすることが重要。

（推進体制について　意見交換）

〇小笠原委員

60 頁の図の双方向矢印は、一部限定的にかかるような見え方を修正すると、誤解がなくなる。

〇事務局

ご指摘のとおり修正する。

〇鈴木委員

市と市川市文化振興財団が両輪で実施計画を推進していくことが伝わるように図に反映されると良いと思う。

「文化施設・博物館」について、市川市文化振興財団が運営している文化施設もあるので、どの施設が含まれるか気になった。

〇事務局

見せ方を工夫する。

〇小坂委員

広報の充実がないと、市民は実施計画が自分事に思えない。

市民主体の祭りやバザーも増えてきているので、何かやりたい人はいる。市民へのメリットがわかると良い。

〇事務局

文化芸術プラットフォームシステムは、広報紙や Web サイトなど一方通行の情報発信ではなく、市民団体等の情報も双方向に載せられるようなコンテンツも考えている。皆様のご指摘を踏まえて作り方を考えていく。

〇朽木委員

実施計画が、「協働」から「共創」に力を入れることは非常に良い。特に推進体制の中で強調されると良い。「総合計画 2050」では共創を前面に出すことは難しかったという経験がある。

「市」「市民」「団体」が何をするのか、それぞれが何の価値創造に参画できるかという視点が入っている良い計画だと思っている。「共創」を図の中心に目立つように入れるなど、推進体制の図をブラッシュアップしていただきたい。

（２）その他

（各委員より意見・質問等）

なし

（事務局からの連絡）

本日いただいたご意見・ご提案を取りまとめた「最終案」を、近日中にご確認いただく。10 月中に本案

【会議録】

を正式に策定し、11 月より「第 1 次実施計画」をスタートする。
本日の会議をもって、今年度の市川市文化芸術事業検討懇話会はすべて終了となる。
皆様からいただいた貴重なご提言をしっかりと形にし、今後、実施計画の事業へとつなげていく。